

大 理 書 房 刊 行 書 目

北 吟 吉 著 新 刊

排 擊 の 歴 史

大正六年三十三歳の時から五十七歳の今日に至る二十五年間、時代に應じて、流俗の誤れる主張を排撃した論文集。破邪と同時、正一代に應じて、誤史、罪惡史に學べば、精髓である。論文集。破邪と同時、正一代に應じて、思想の重きを知らざる識者におく。日本の今後行くべき道は自ら明かす。敢て思想の重

大坪草二郎著 新刊

武 市 半 平 太

誠實重厚、大西郷に比肩するといはれた土佐勤皇黨主、武市半平太が、尊皇運動の第一聲をあげてより、藩國の迫害を受け、三文字腹を切つて果つるまで、尊皇の壯なる生涯を描く。烈々たる愛國精神と、誠心誠意の文字、腹を切つて果つるまで、尊皇の志を、正に國民文學の白眉といふべきである。他に大阪築城記、格と吉良上野介、と寛と馬之助等の七篇を収む。

潮 志 貴 あ や 著 騷 續 刊 定 價 未 定

著者は文筆に於ては無名の一家庭人に過ぎない。夫に仕へ二人の娘を愛育しなから、家事の暇を盗んで一日も讀書を廢したことなく、年齢となつたので、著者は美かいた。母心をもつて、娘は長じて、小説を書くに突きた。この小説の純情と知性は、暖

5A-38



終